

空と風の散歩・大野コース

阿南健康第5番完歩 大野公民館の道

①大野公民館	500m	②惣蔵神社	800m	③水源池	700m
WC					
④水神社	900m	⑤野神社	800m	⑥持井橋	1.2km
⑦城内神社	1.9km	⑧城山神社	1.2km	⑨西部公園	1.3km
			WC		
⑩大野総合センター	200m	⑪下大野教育集会所	WC		1.0km

…… 大野公民館
WC

●那賀川の名 加茂谷から大野、中野島に沿って流れる那賀川は、もと「長川」と書かれていた。西暦645年の大化改新前までは、那賀川を中心とする地域には「長(なが)の国」があり、事代主命の子孫韓背足尼(からせのすくね)が国造として支配していたところから「長川」の名が生まれたと考えられる。大化改新後、長国は吉野川流域にあった栗国(あわのくに)と合併し、和銅6(713)年には、阿波国那賀郡と改名されることになり、「長川」も「那賀川」と名称を変更された。

●三条の名 大化の改新後、条里制度により、全国的に土地の区割りが行われた。条里制度とは、大化の改新(645年)で定められた班田收授の法により、公民に与えられた口分田の地割りのことである。「坪」という1町四方の土地を基礎とし、6町四方の土地を「里」、里を縦に数えるとき「条」と呼んだ。現在、条里制度のなごりとして、九ノ坪、三条などの地名が残っている。

●ガマン堰(竹原堰)跡 那賀川と岡川が接する地点では、度重なる洪水から商工業地域と農地を守るため、明治2(1869)年、「越流堤」と呼ばれる石張りの堰が築かれた。しかし、洪水はしばしば堰や田畑を壊したため、その度に地元の人々は「ガマン、ガマン」と励まし合って復旧させた。そのため、いつしか竹原堰は「ガマン堰」と呼ばれるようになった。昭和18(1943)年、改修工事により、現在の堤防となった。

●八貫の渡しの跡 昔、持井橋の下流の土手に八貫渡しと言われた渡し場があった。安政2(1856)年、「長川及岡川絵図」には持井～上大野、岩脇～南島、古庄～中原、大京原～柳島、中嶋～横見の5箇所の渡し場が描かれている。

●野神社 昔、那賀川は再三にわたり堤防が決壊し、大洪水になった。村人は相談した結果、朝一番に堤防を通った女の人を、人柱に立てることにした。そして、何も知らない女のお遍路さんが通りかかり、無理やり人柱にされてしまった。昭和24(1949)年、那賀川南岸用水の工事の際、人骨が発掘され、言い伝えが本当であることが判明した。その人骨を祀り、犠牲者の冥福を祈ったのが野神社である。「野さん」とも言われ、肩こりや足腰の痛みを治してくれるそうである。

●上大野城跡 城の主将は仁木伊賀守と伝えられる。天正10(1582)年、長宗我部軍により、この上大野城ほか、本庄城、西方城、大湯城、今市城が落城した。戦国時代、阿波国の実権は三好家から細川家へと移ったが、天正11(1583)年に、長宗我部元親により四国統一された。

●阿南西部公園 阿南西部公園は、市の花「ひまわり」、美しい清流「那賀川」、橘湾の雄大な「リアス式海岸」をイメージした複合遊具を配置している。また、自然の地形を生かした多目的芝生広場や遊歩道があり、子どもからお年寄りまで、気軽に運動や遊びに親しみながら、健康づくり、人との交流、心の安らぎが得られる公園である。